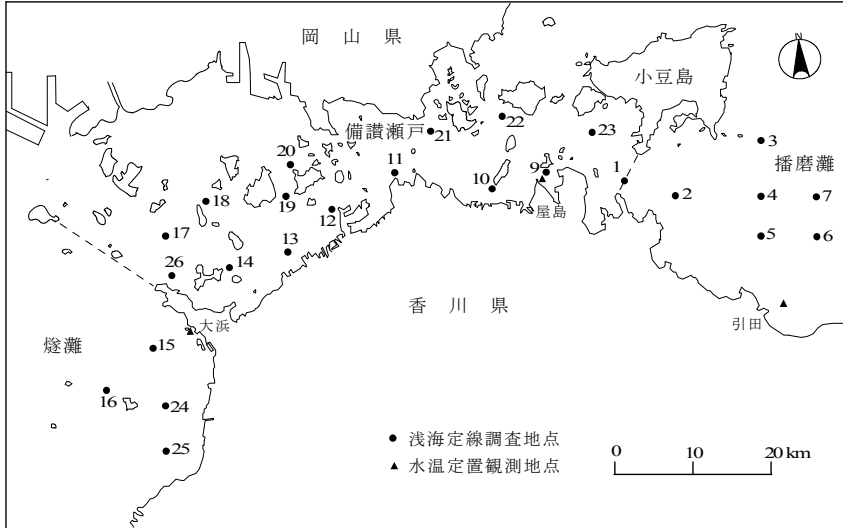


香川県漁海況速報 平成22年1月 (H21-10号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成22年1月12日（播磨灘），8日（備讃瀬戸，燧灘）

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温及び塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「やや低めからやや高め」、溶存酸素は「平年並みからやや高め」であった。

1月

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	12.7	12.5	12.2	32.7	32.7	32.9	9.3	6.12	6.09
	平年値	12.5	12.4	12.4	32.5	32.5	32.5	7.7	5.96	5.92
	平年偏差	0.3	0.1	-0.3	0.2	0.3	0.4	1.7	0.16	0.17
	標準偏差(σ)	1.0	1.0	1.1	0.6	0.6	0.6	1.9	0.23	0.25
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	11.5	11.5	11.5	33.2	33.2	33.2	5.6	6.14	6.21
	平年値	11.9	11.8	11.8	32.6	32.6	32.6	5.6	5.96	5.97
	平年偏差	-0.3	-0.3	-0.4	0.6	0.6	0.6	0.0	0.18	0.24
	標準偏差(σ)	0.9	0.9	0.9	0.6	0.6	0.6	1.6	0.25	0.24
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	やや高め	やや高め
燧灘	4地点平均値	12.5	12.5	12.5	33.3	33.4	33.3	6.1	6.09	6.03
	平年値	12.5	12.5	12.6	32.8	32.8	32.9	7.5	6.05	5.93
	平年偏差	0.0	0.0	-0.1	0.5	0.5	0.5	-1.4	0.04	0.10
	標準偏差(σ)	0.8	0.8	0.8	0.5	0.5	0.5	2.0	0.27	0.20
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み	平年並み

平年偏差＝平均値－平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

- | | | |
|---------------|--|----------|
| 平年並み | $0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$ | (σ：標準偏差) |
| やや高め (やや低め) | $0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$ | |
| かなり高め (かなり低め) | $1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$ | |
| 著しく高め (著しく低め) | $2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$ | |

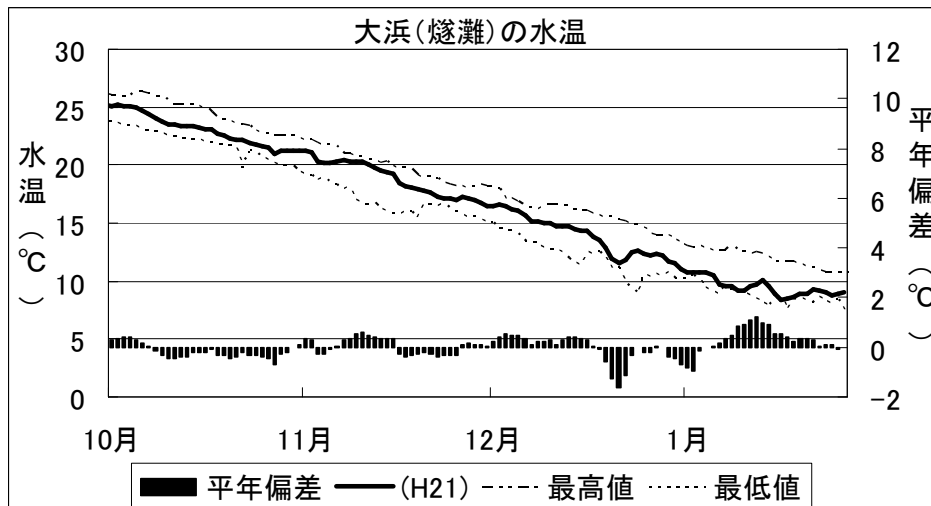
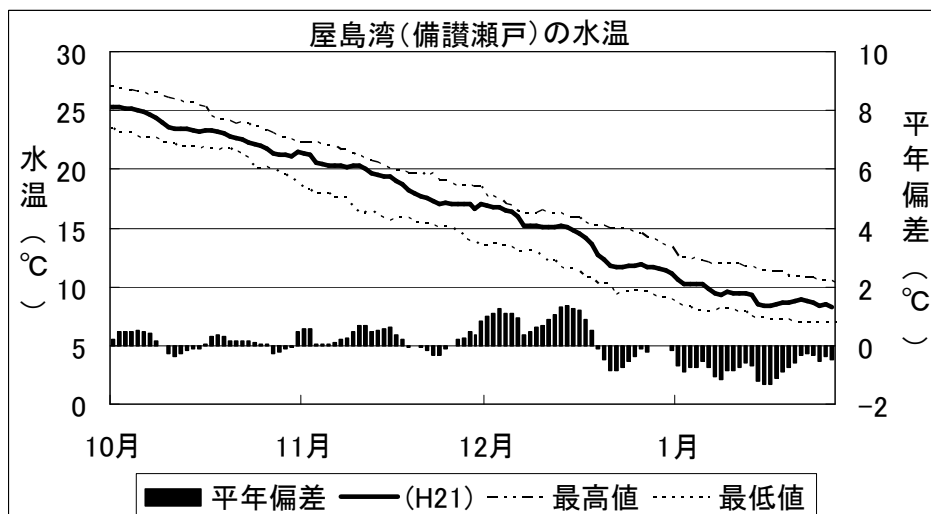
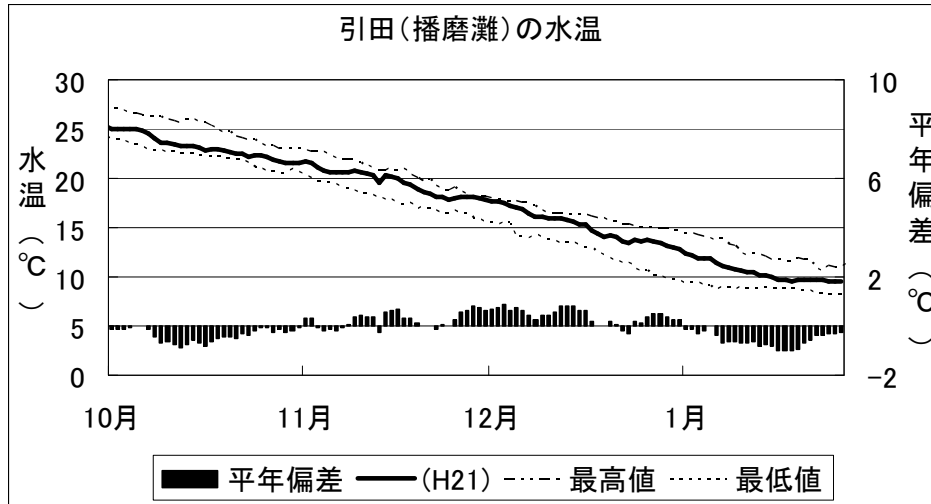
3) 定置観測 (水温)

播磨灘 (引田) : 10 月以降, やや低めで推移していたが, 11~12 月は平年並みかやや高め、1 月からは平年並みかやや低めで推移している。

備讃瀬戸 (屋島) : 10 月以降は平年並みで推移していたが, 12 月はやや高めからやや高め (一部かなり高め) から下旬にはやや低めとなり、以後、平年並みからかなり低めで推移している。

燧灘 (大浜) : 10 月からは概ね平年並みで推移していたが, 12 月下旬にかなり低めの日があった。1 月以降は平年並みからやや高め (一部かなり高め) で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜 : 平成元 (1989) ~平成 20 (2008) 年
屋島 : 昭和 50 (1975) ~平成 20 (2008) 年



4) 赤潮 (12月18日～1月25日)

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成22年1月8日 (播磨灘), 12日 (備讃瀬戸, 燧灘)

出現量

		カタクチイワシ		マイワシ		イカナゴ		その他の魚類	
		卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	1.3
	平年値	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	2.5		
	対平年 (%)	-	0	-	0	-	176		
備讃瀬戸	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	0.9
	平年値	0.0	0.0	0.2	0.5	0.0	4.9		
	対平年 (%)	-	-	0	0	-	106		
燧灘	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	平年値	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.1		
	対平年 (%)	0	0	0	0	-	0.0		
総平均	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	1.0
	平年値	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	3.5		
	対平年 (%)	0	0	0	0	-	120		

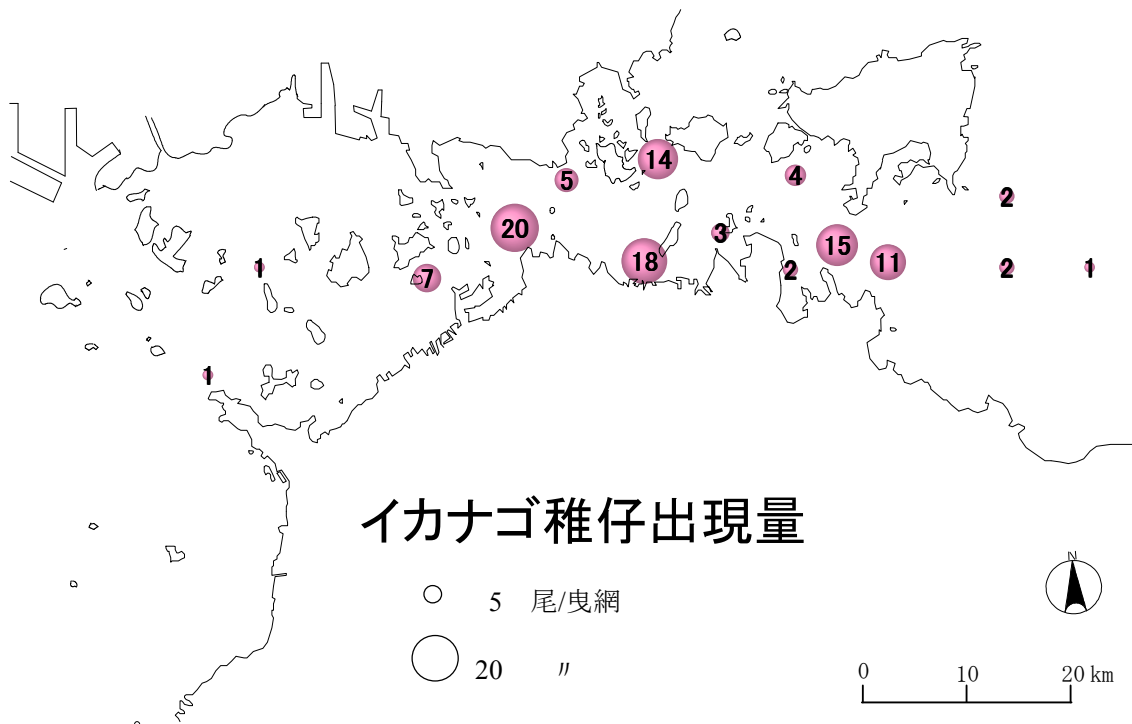
－：平年値が0の場合を示す。(その他の魚類については平年値がない。)

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55年(1980)～平成20年(2008)年度

マイワシ：平成5年(1993)～平成20年(2008)年度

今回の調査点ではカタクチイワシ卵は、確認されなかった。



2. 漁況

12月からの漁況は次のとおりである

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にウシノシタ類, マコガレイ, オニオコゼ, カワハギ, 小エビ類が漁獲されている。</p> <p>柵網では主にマアジ, マダイ, マボラ, カワハギ, マコガレイが漁獲されているが, 低調である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類, メイタガレイ, マアナゴ, カワハギ, スズキ, マボラ, マダコ, イイダコ, コウイカ類, 小エビ類が漁獲されている。</p> <p>中讃・高松沖のたいらぎ潜水器漁業の漁獲量は前年同期の約2分1程度で, 10~30Kg/隻・日程度と依然低調である。</p> <p>高松沖のいかなご込し網は前年同様1月15日から操業が開始された。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にメイタガレイ, マコガレイ, スズキ, イヌノシタ, オニオコゼ, マダコ, 小エビ類が漁獲されているが, イヌノシタ, ガザミが少ない。</p> <p>柵網では主にマダイ, クロダイ, スズキ, マコガレイ, ウマヅラハギ, シリヤケイカが漁獲されている。</p>